

国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室

紀 要

2

2 0 1 6

国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室

紀 要

2

2 0 1 6

序 文

このたび、『紀要2』をお手元にお届けできる運びとなりました。本書の「第Ⅰ部」では、論文3本、研究ノート1本、合計4本の論考を収録することができました。2014・2015年度に実施した徳島市三谷遺跡の発掘調査報告、近年の考古学における水稻農耕開始前後の気候変動論の検討、常三島遺跡の近世火葬墓に関する論考、南庄遺跡出土の素文鏡に関する論考など、内容は多岐にわたり、いずれも考古学、あるいは歴史学の進展に貢献するものです。

「第Ⅱ部」は、2014年度の業務・活動報告となりますが、同年度は新たなチャレンジの目立つ充実した1年であったと思います。発掘調査については、常三島地区で1件と、石井地区で1件、合計2件の試掘調査が実施されました。常三島地区での地域創生・国際センター新営に伴う試掘調査では、近世徳島藩城下町「常三島」地区の盛土の南限が検出されました。また、石井地区での試掘は、新設される生物資源産業学部の豚舎新営に伴うものであり、同地区においての本調査室初の調査となりました。調査だけでなく、整理作業にも力を注ぎ、長年の懸念事項であった『新蔵遺跡ー地域・国際交流プラザ地点ー』の報告書を刊行することができました。また、本学構内遺跡の調査研究、調査室員による研究成果の迅速な発信、調査室全体の業務・活動報告を目的として、新たに『紀要』と『ニュースレター』を刊行しました。さらに、ミニ展示「江戸時代の常三島」を開催し、これまでの調査研究の成果の一部を学内外へ発信しました。今後、これらの成果が、考古学・歴史学などの学界、あるいは大学・地域社会において、幅広く活用されることを期待しています。

現在、本調査室では、構内の再開発も一段落し、従来の発掘調査中心の業務から、出土文化財の整理作業とその活用を中心とした業務へと大きく転換しつつあります。出土文化財の活用における最終的な目標は、社会構成員が一体となって、こうした文化財を、大学・地域を代表する「文化遺産」の高みへと押し上げることです。そのためには、学内外の学識経験者、市民の皆様からの積極的なご参加がいつそう必要となります。今後とも、どうかご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。

平成28年3月31日

徳島大学埋蔵文化財調査室長

端 野 晋 平

例 言

1. 本書は、考古学および本学構内遺跡の調査研究に関する論考と、本調査室が2014年度に実施した業務・活動報告を掲載した紀要である。
2. 徳島大学の三つのキャンパスはすべてが周知の埋蔵文化財包蔵地である。本学では、蔵本地区所在の遺跡を庄・蔵本遺跡、常三島地区所在の遺跡を常三島遺跡、新蔵地区所在の遺跡を新蔵遺跡と独自に呼称している。本書ではこれに従う。
3. 執筆者は目次に記載するとともに、第Ⅰ部は文頭に、第Ⅱ部は文末に記した。
4. 付編は端野晋平室長の指導のもと、脇山佳奈が作成した。
5. 本書の編集は、端野の指導のもと、脇山が行った。
6. 本書で使用した座標の値は、世界測地系による平面直角座標系（第Ⅳ系）に依拠する。方位は座標北、レベルは海拔標高である。
7. 土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に準拠した。ただし、立会調査についてはこの限りではない。
8. 本書に掲載した徳島大学構内遺跡の調査記録および出土遺物は、人骨を除いてすべて徳島大学埋蔵文化財調査室で保管している。今後、研究・教育の場で積極的に活用されることを期待する。

目 次

第 I 部 論 考

論 文

- 徳島市三谷遺跡の研究1－徳大1・2次発掘調査成果から－ …………… 中村 豊 … 3
考古学における気候変動論の検討
－日本列島・朝鮮半島の水稻農耕開始前後を対象として－ …………… 端野晋平 … 25
常三島遺跡の近世火葬墓 …………… 端野晋平・米元史織 … 37

研究ノート

- 南庄遺跡出土素文鏡について …………… 脇山佳奈 … 53

第 II 部 2014年度の業務・活動報告

第 1 章 常三島遺跡地域創生・国際センター新営に伴う試掘調査

- …………… 三阪一徳 … 63
第 1 節 地理的・歴史的環境と既往の調査 …………… 63
第 2 節 調査の概要 …………… 63
第 3 節 調査成果 …………… 67

第 2 章 石井地区生物資源産業学部豚舎新営に伴う試掘調査

- …………… 端野晋平 … 73
第 1 節 調査の概要 …………… 73
第 2 節 調査の経緯 …………… 73
第 3 節 調査の記録 …………… 73
第 4 節 ま と め …………… 74

第 3 章 立会調査の概要 …………… 脇山佳奈 … 78

| | | |
|-----------------------------------|------|----|
| 第4章 出土資料の整理・公開・活用 | 端野晋平 | 81 |
| 第5章 調査室員の研究教育実績 | 端野晋平 | 83 |
| 第6章 業務・活動報告のまとめ | 脇山佳奈 | 86 |
| 付 編 | | |
| 1. 沿 革 | | 87 |
| (1) 埋蔵文化財調査室設置以前 | | 87 |
| (2) 徳島大学埋蔵文化財調査委員会・同調査室設置以降 | | 87 |
| 2. 2014年度徳島大学埋蔵文化財調査室組織 | | 90 |
| 3. 徳島大学埋蔵文化財調査室規則 | | 90 |

第Ⅱ部 挿図目次

| | | |
|------|----------------------------|-----|
| 第1図 | 常三島遺跡と周辺の遺跡 | 64 |
| 第2図 | 既往調査地点と本調査地点の位置 | 65 |
| 第3図 | 調査地点平面図と土層断面の位置 | 66 |
| 第4図 | B区土層断面 | 68 |
| 第5図 | 本調査地点と『御山下島分絵図』との重ね合わせ | 71 |
| 第6図 | 出土遺物 | 72 |
| 第7図 | 調査地点の位置 | 74 |
| 第8図 | 試掘坑の位置 | 75 |
| 第9図 | 土層断面図 | 76 |
| 第10図 | 明治29年における調査地点周辺の土地利用状況 | 76 |
| 第11図 | 2014年度蔵本地区立会調査地点 | 78 |
| 第12図 | 2014年度南常三島地区立会調査地点 | 79 |
| 第13図 | ミニ展示のポスター | 81 |
| 第14図 | 『新蔵遺跡―地域・国際交流プラザ地点―』正誤対応図1 | 103 |
| 第15図 | 『新蔵遺跡―地域・国際交流プラザ地点―』正誤対応図2 | 104 |

第Ⅱ部 表目次

| | | |
|-----|--------------------------|-----|
| 第1表 | 2014年度立会調査地点 | 79 |
| 第2表 | 発掘調査(2014年度まで) | 92 |
| 第3表 | 立会調査(2013～2014年度) | 96 |
| 第4表 | 埋蔵文化財調査室収蔵遺物概要(2014年度現在) | 98 |
| 第5表 | 埋蔵文化財調査室刊行物(2014年度まで) | 102 |
| 第6表 | 埋蔵文化財調査室刊行物正誤表一覧 | 102 |

第Ⅱ部 写真目次

| | | |
|------|----------------|----|
| 写真1 | 調査風景 | 67 |
| 写真2 | B区西壁B-B' 土層断面 | 69 |
| 写真3 | 重機掘削風景 | 77 |
| 写真4 | 試掘坑東壁土層断面（西から） | 77 |
| 写真5 | 1-1地点南壁（北から） | 80 |
| 写真6 | 1-2地点北壁（南から） | 80 |
| 写真7 | 1-3地点西壁（東から） | 80 |
| 写真8 | 1-5地点東壁（西から） | 80 |
| 写真9 | 2地点北壁（南から） | 80 |
| 写真10 | 3-1地点南壁（北から） | 80 |
| 写真11 | 3-2地点南壁（北から） | 80 |
| 写真12 | 3-4地点南壁（北から） | 80 |
| 写真13 | ミニ展示の開催風景 | 82 |
| 写真14 | 整理作業の風景 | 82 |